

小児の地域包括ケアにおける小児看護学実習の展開と実習構造図

上山和子¹⁾*・山本裕子¹⁾・西村美紗希¹⁾・小田 慈²⁾

1) 新見公立大学健康科学部看護学科 2) 新見公立大学保健管理センター

(2022年9月21日受付、11月16日受理)

看護基礎教育課程では、看護学教育モデル・コア・カリキュラムの導入、2022年度の指定規則によるカリキュラム改正に伴い、地域包括ケアの概念が取り入れられた。今回、小児看護学実習に於ける地域包括ケアの概念を取り入れた実習の展開方法について検討を行った。その結果、小児看護学実習においても、地域の小児科外来の受診者と大学の子育てカレッジの利用者との関係性を認識した実習を行うことにより、地域の子どもの健康の維持・増進への関わりや多職種との連携による育児支援について学修できる機会となることが示唆された。

(キーワード) 看護基礎教育課程、小児看護学実習、小児地域包括ケア、プライマリケア

はじめに

看護基礎教育課程は、文部省・厚生省令による保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則とする）に、看護師養成の教育内容が示されている¹⁾。さらに、学士課程の看護基礎教育においては、看護学教育モデル・コア・カリキュラムとして全国の大学での共通の教育内容の導入が提示されている^{2) 3)}。

看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、多様なニーズに応えるべく、学士課程の学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の看護実践力を具体的な学修目標として提示している。4年制の大学で行われる看護学教育の中で看護学教育モデル・コア・カリキュラムは、学修時間数の7割を目安とした内容・分量について体系的に整理された全国共通のカリキュラムである。ここでは、地域包括ケアの医療・介護・予防・生活支援の一体的提供の概念が示されており、実習形態も医療機関での実習だけでなく、地域のフィールドを活用した実習の導入が提案されている。

看護基礎教育課程の指定規則は、社会背景を踏まえ改定が積み重ねられてきた。この度の第5次の指定規則の改訂の狙いは、①臨床判断能力を向上させるために、専門基礎科目および専門科目の基礎看護学の単位数の増加②地域のフィールドを対象とする在宅看護論から地域・在宅看護論への変更である^{4) 5)}。つまり、看護学教育モデル・コア・カリキュラムでも取り上げている地域包括ケアの概念が指定規則にも導入され、地域をフィールドとした実習展開の考え方が掲げられた。

このことより、臨地実習科目である小児看護学実習で

は、従来からの問題解決学修としての看護過程を中心とした実習展開から、地域に焦点化した実習への移行を考慮し、地域の子育て支援における小児看護学実習の展開方法の検討が必要と考えた。

本研究では、看護学教育モデル・コア・カリキュラムの導入および指定規則の改訂に伴い、地域のフィールドを活用した小児看護学実習の展開と指導内容を検討し、今後の教育方法の基礎資料を得ることを目的とする。

1.用語の定義

看護学教育モデル・コア・カリキュラムとは：多様なニーズに応えるべく、学士課程の学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の看護実践力を具体的な学修目標として提示した。4年制の大学で行われる看護学教育のうち、体系的に整理された全国共通のカリキュラムである。大項目として7項目に分けられる。内訳は①看護系人材として求められる基本的な資質・能力、②社会と看護学、③看護の対象理解に必要な基本的知識、④看護実践の基本となる専門基礎知識、⑤多様な場における看護実践に必要な基本的知識、⑥臨地実習、⑦看護学研究である。⑥の臨地実習では、知識と技術の統合を図り、受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うことを掲げている^{2) 3)}。

保健師助産師看護師学校指定規則とは：看護師養成教育の内容を示した文部科学省、厚生労働省の合同省令は、指定規則と呼ばれている。第5次の指定規則では、人口及び疾病構造の変化に伴う療養の場の多様化を踏まえ、地域医療構想の実現、地域包括ケアシステムの推進に向け、多職

*連絡先：上山和子 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

種連携が掲げられ、看護の対象の多様性・複雑性に対する看護実践力が期待されている^{4) 5)}。

II. A大学小児看護学実習目的および目標⁶⁾

小児看護学実習目的は、社会的ニーズである次世代を育むという視点を持ち、育児期を中心とした小児と家族を支援する看護を展開できる態度を養うことを目的としている。

特に小児の発達段階を理解し、健康な小児の養護と健康上の諸問題をもつ小児への看護実践とおし、各健康レベルの小児の健康問題を捉える能力と態度を養うことを掲げている。目標としては、以下の3点を挙げている。

- 1) 健康な小児の発達段階の特徴を知り、その発達段階に応じた保育的な働きかけを理解する。
- 2) 各期の発達段階別の健康障害をもつ小児および家族の看護問題を捉え、援助の必要性について理解する。
- 3) 小児の保健・医療・福祉・教育について理解し、幅広く健康問題を捉え、小児看護の役割を理解する。

III. 小児看護学実習における小児の地域包括ケアの考え方

看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、社会の中での看護学の位置づけとして、社会に貢献できる人材の必要性が挙げられた。特に地域医療構想に基づく多職種連携をカリキュラムの軸に入れ、地域包括ケアシステムの構築を行える人材の育成を目指し、さらにチーム医療の場として活躍できる人材を目指すとした。

また、多様な場における看護実践に必要な専門知識では、看護が求められている多様な場を理解するとともに看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、看護実践を理解することを挙げている。

臨地実習では、知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての能力を身に付けるとしている。看護の役割として多様な場での活動が期待され、医療だけでなく、A大学の小児看護学実習の目標³⁾に示す保健・医療・福祉・教育の場での看護実践が期待されているように、それぞれの地域社会の中に合わせた役割を遂行することが求められる。このような社会で地域の子どもの育てるための協働の概念が小児の地域包括ケアシステムの基盤となる。

ゆえに、小児の地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の概念をおして地域で子どもを育てることに関わる看護職の養成は急務と考える^{7) 8)}。

IV. 小児の地域包括ケアの考え方を導入した実習展開の概要

小児の地域包括ケアの考え方は、厚生労働省が2014年の地域包括ケアシステムの導入として、住み慣れた地域で、乳幼児から高齢者まで安心して過ごす地域づくりを掲げたことである⁹⁾。小児期は、その人の健康の基盤を育成する時期であり、地域での子育て支援を反映した取り組みが求められる。花野は、健康・不健康にかかわらず、地域で生活する子どもの育ちを支える看護職の役割を取り上げている¹⁰⁾。小児看護の場が病院だけでなく地域社会に広がっており、地域の小児科外来をおして成長過程にある子どもの育ちに関わる看護を学び、医療と家庭をつなぐプライマリケアを学ぶ意義は高いといえよう。

A大学小児看護学実習は、主に病院実習と保育施設実習で展開している。ここでいう病院実習とは、小児病棟および小児科外来での実習を示す。保育施設実習とは、子育てカレッジ実習を示す。子育てカレッジ実習は、大学内にある地域の子育て広場での実習を示す。また、子育てカレッジ実習は、大学内にある地域の子育て広場や子育て相談の場としての機能をもつ施設であり、子どもの活動の実際や子育て支援を学ぶ実習ある。加えて地域包括ケア実習とは、地域の小児科外来での実習を示す。

本稿では、小児看護学実習の対象年齢の子ども達が過ごす場での健康の維持・増進への取り組みや子育て支援との連携・協働の考え方を学ぶ機会として地域の小児科外来での実習の導入を検討した。その子ども達が大学の子育て支援の一つである子育てカレッジでの利用者と重なっていることを勘案し、小児の地域包括ケアについて一体化した学びを得る機会として新たに地域の小児科外来での実習を導入した経緯がある。

このことより、地域の病院と子育て支援の連続性を学ぶ機会としたい。以下の実習展開の概要を示す(表1)。

表1. 小児看護学実習概要

	曜日	項目	実習内容
	金	オリエンテーション	実習前のオリエンテーション・演習
1週	月	実習	小児病棟/ 外来
	火	実習	小児病棟/ 外来
	水	実習	小児病棟/ 外来
	木	実習	小児病棟/ 外来
	金	学内	カンファレンス
2週	月	実習	*地域の小児科外来(地域包括ケア) / シミュレーション *シミュレーション / 地域の小児科外来(地域包括ケア)
	火	実習	子育てカレッジ
	水	実習	子育てカレッジ
	木	実習	子育てカレッジ
	金	学内	カンファレンス

V. 地域の小児科外来と子育てカレッジとの相互の学びによる小児看護学実習の構造図

この度の小児の地域包括ケアの考え方を導入することで、新たに小児看護学実習の構造図を検討した。

①基盤となる各発達期の理解を促す。これは、子育てカレッジおよび小児科外来での乳幼児健診での実習をとおして学ぶための基礎的知識の理解となる。身長や体重の変化などの身体的発達の特徴および情緒の発達過程などを事前学習として理解する。

②子育てカレッジでは、情緒の発達過程や集団における社会化について学ぶ。さらに年齢別の健康な小児の発達段階の特徴を理解する。併せて多職種連携による子育て支援への具体的な関わり方を学ぶ。

③A大学の所在地である地域の小児科外来実習において、健康の維持増進に必要な予防接種や乳幼児健診を学ぶ。さらに小児の総合的医療としてのプライマリケアとして機能を持ち、育児期の健康相談について学ぶ。

④小児病棟、小児科外来実習で健康に問題をもつ小児の看護問題への実践について学ぶ。特に小児期の疾病において増加しているアレルギー疾患の背景を受けて、小児科外来または小児病棟で実践されている食物負荷試験への看護実践を学ぶ。学内でのリフレクションとして実習に類似したアナフィラキシー症状を示す事例を用いたシミュレーション学修から食物アレルギー反応への対処方法を学ぶことは、確実な知識や技術の習得に向けて実習での体験を強化し、実践を身に付ける学修となる。

⑤各健康レベルの小児看護学実習をとおして、小児期の健康問題を捉え、問題解決を図る小児看護の役割を学ぶ(図1)。

以上、小児の地域包括ケアの考え方を基に地域のフィー

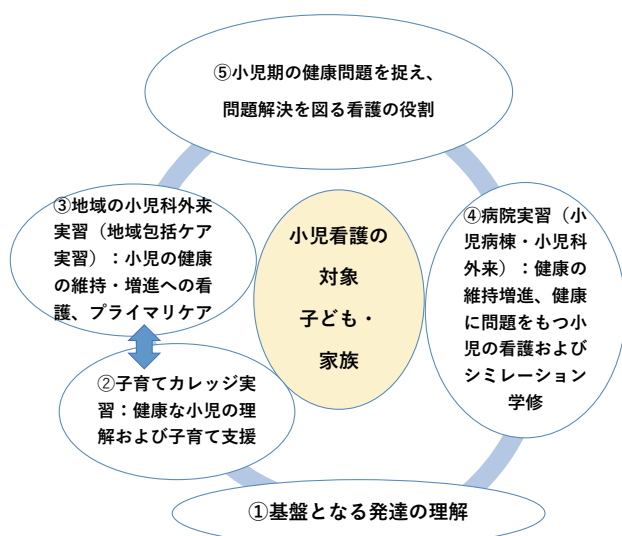


図1. 小児看護学実習構造図

ルドを取り入れた実習の構造図を検討した。小児看護学実習の課題として、実習場所の確保が困難な現状がある。子どもと家族への看護は小児科病棟等に特化されるのではなく、さまざまな場で展開される¹¹⁾。このことより、実習目標を明確にし地域のフィールドでの実習を取り入れることは、新たな実習形態の一つとして考えられる。

今後、地域の小児科外来の役割と子育てカレッジを利用する保護者への関わりをとおして、より小児看護学実習に於ける地域の子どもの育ちに関わる看護職の役割を学べるように実習展開を工夫していきたい。

文献

- 1) 杉森みどり, 舟島なをみ著:看護教育学第6版. 医学書院, 2016.
- 2) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会:看護学教育モデル・コア・カリキュラム~「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標~, [2022.9.14] <https://www.ina.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/20220104-2520.pdf>
- 3) 高田早苗:文部科学省大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業 看護系大学学士課程における臨地実習の現状並びに課題に関する調査研究報告書. 日本看護系協議会. 2016.
- 4) 厚生労働省:保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について [2022.9.14], https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc5425&dataType=1&pageNo=1
- 5) 厚生労働省:看護基礎教育検討会報告書:[2022.9.14], <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>
- 6) 新見公立大学:看護学実習実施要項2022年度. 新見公立大学, 2022.
- 7) 河俣あゆみ:小児の外来看護の現状と今後の展望. 小児看護, へるす出版, 43 (2), 138-144, 2020.
- 8) 原珠美:総合病院における小児外来の役割と課題. 小児看護, 43 (2), 154-165, 2020.
- 9) 厚生労働省:地域包括ケアシステム, [2022.9.14], https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
- 10) 花野典子:子どもの育ちを支える小児看護の役割. 小児看護, へるす出版, 39(1), 10-17, 2016.
- 11) 川名るり:看護系大学におけるコアカリキュラムに応じた小児看護学教育の実習コアモデルの開発 平成25年度~平成28年度 文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C) 研究成果報告書, 2017.

